

青森県基本計画 未来への挑戦

情熱あふれる ふるさと青森づくり

この計画は、2030年における本県のめざす姿を掲げ、その実現に向けて、今後5年間、県が取り組む内容等を取りまとめた未来創造型の計画です。

2030年におけるめざす姿

県では、2030年における「生活創造社会」の姿として「生業(なりわい)に裏打ちされた豊かな生活」が実現している社会を掲げています。

これは、県民一人ひとりのチャレンジ精神あふれる取り組みにより、所得や雇用といった経済的基盤の創出・拡大が図られ、輝いて生きられる社会、そして心の豊かさ、命・健康・環境など、暮らしやすさが守られ、安心して生きられる社会です。

具体的には4つの分野ごとに、次のような姿を掲げています。

夢への羅針盤

この計画は、青森県という船を、2030年におけるめざす姿、すなわち「夢」の実現に向けて運航していくための羅針盤の役割も担っています。

県は、この羅針盤に従い、航路を誤ることなく針路を見定め、めざす姿の実現に向けた取り組みを着実に進めていきます。

注目指標

計画の進み具合を把握し、本県の立ち位置を確認するため、「一人当たり県民所得」と「平均寿命」の二つの「注目指標」を掲げています。

注目指標	おおむね10年後におけるめざす状態
生業 1人当たり県民所得*	現在(2005年度)の1.5倍程度をめざして上昇
生活 平均寿命	全国順位がアップ

*1人当たり県民所得:統計に用いられる用語で、都道府県の経済全体の力を比較する際に用いられます。県民所得には企業所得等が含まれるため、個人の所得水準を表すものではありません。

計画の推進

この計画の推進に当たっては、県民の皆さんの共感をいただき、それぞれの立場で、計画の推進へ参画していただきたいと考えています。このため県は、情報発信や情報共有を積極的に進め、多くの皆さんの参画と協働を積極的に働きかけていきます。

また、政策を点検し、その結果を次の政策に反映させる「マネジメントサイクル」を適切に展開するとともに、男女共同参画の推進や市町村・近隣道県との連携強化、行財政改革の推進等にもしっかりと取り組みながら計画を推進していきます。

生業(なりわい)

産業・雇用

- ～仕事づくりと所得の向上～
- 「世界の中の青森」、最先端の憧れの地
 - 青森の強み(食、エネルギー)を日本中が頼りにする社会
 - やりがいを持ち、創造性を生かして働ける社会



生活

安全・安心、健康

～命と暮らしを守る～

- 健康・医療分野の先進県
- 子どもたちを産み育てる「最適の地」
- 災害への備えなどにより、安全で安心して暮らせる地域
- 高く評価される安全な食べ物の生産地

環境

～低炭素・循環型社会の形成～

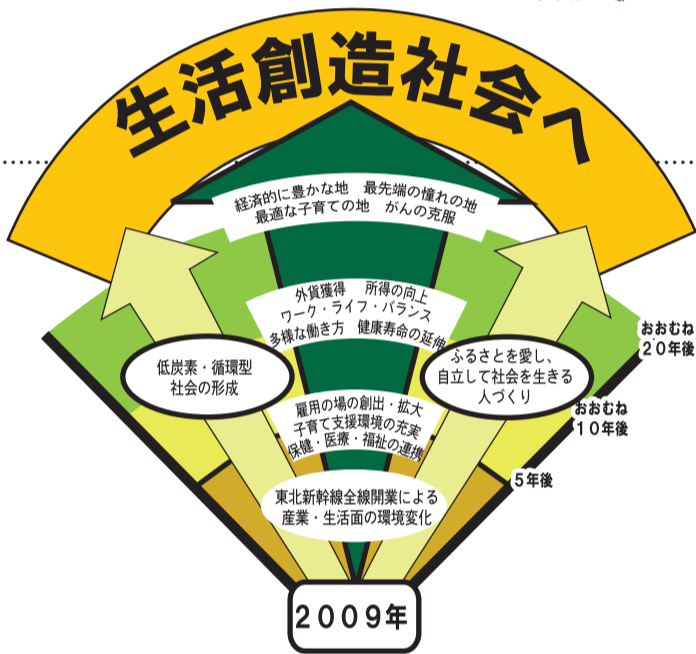
- 命のふるさとである自然環境と触れ合える生活
- 日常生活に定着している廃棄物の減量・リサイクル
- 低炭素社会形成への積極的取り組み
- 環境への理解と環境配慮の輪の広がり



教育、人づくり

～生活創造社会の礎～

- 郷土をよく知り、愛着と誇りを持つ子どもの育成
- 夢や志の実現に取り組む子どもの育成
- 社会全体での子どもの健全育成
- 地域産業や地域づくりをリードする人財の活躍
- 生きがいを持った生活
- 歴史的な文化遺産や郷土の伝統文化の継承



「生業（なりわい）」とは

県民一人ひとりが、この青森県で充実した人生を送るためには、自己実現のために様々なチャレンジができる環境づくりが大切であり、そのためにも経済的基盤の裏打ちは大切です。

この計画では、「生業（なりわい）」という言葉に、「県民一人ひとりの経済的基盤」という新たな意味を加え、「生活」と対をなす、重要な言葉と位置付けていきます。

新たな「生業（なりわい）」づくりへ

この計画では、青森県の持つ資源をこれまで以上に活用して、農業や製造業、観光関連産業などの振興により県外から所得を得る「外貨獲得」を図るとともに、商業やサービス業など県内での消費に関する産業を活性化することにより、獲得した外貨をしっかりと「域内循環」させることをめざしています。

「食料」や「エネルギー」などの県が持つ資源の強みや東北新幹線全線開業というチャンスを生かして、県外から所得を獲得し、それを県内消費に結びつけることで、結果として県民の所得の増加や雇用の場の確保に結び付けていくことが一つの目標です。

このような経済活動の実現には、県と県民一人ひとりが、「生業（なりわい）」づくりを一丸となって取り組むことが大切です。

栽培から醸造まで、メイドイン下北のワイン（むつ市）

概要

- 平成10年からブドウを栽培し、13年から山梨県のワイナリーに醸造を委託
- 現在は、7,000㎡の畑に、5品種を作付け
- 19年にワイナリーを建設し、正真正銘の下北ワインへ

ポイント

- 下北の風土に合ったブドウづくりを推進
【地域資源の発掘・創造・活用、チャレンジ精神】
- 県外への委託による醸造から、地域内で一貫したワインづくりへ
【外貨獲得・域内循環】



県出身者による企業誘致や起業（八戸市）

概要

- 県出身者が起業した会社の事業所を県内に設置
- さらに、自らの誘導により1社の誘致を実現
- 2社で現在約180名、平成22年頃までにはさらに約250名程度の地元雇用を創出
- その他観光関連企業を1社起業、さらに2社程度を設立準備中
- 平成21年4月から起業家養成講座も開設予定

ポイント

- 地元の価値を認識した上で、自然環境やライフスタイルが企業誘致の決め手の一つとなりうることを実証
【雇用の創出・拡大】
- 起業家育成にも積極的
【人財育成】



県内の「生業（なりわい）」づくり事例

「生業（なりわい）」づくりとは、自らの「生活」をより豊かなものとするための経済的基盤をしっかりと築くことであり、そのためには、創意工夫とチャレンジ精神あふれる取り組みが重要です。

ここでは、県内において実際に取り組まれている「生業（なりわい）」づくりの事例をいくつかご紹介します。

ゼロからのスタートで事業を確立・展開（五所川原市）

概要

- 良質な粘土と赤松の薪を活かしたゼロからのスタート
- 産地づくりと併せて、PRにも注力
- 当初から人財育成にも尽力し、海外からも多くの陶芸家を受け入れ
- レストランや陶芸体験など観光資源としても充実

ポイント

- ゼロからのスタートでも情熱と努力で創業・起業できることを実証
【創業・起業】
- 本業を核としながらも、関連する様々な分野へ事業展開
【クラスター形成】



旅行代理店と連携した地産地消の推進（深浦町）

概要

- 大手旅行会社等と連携し、観光客に「海彦山彦料理」を提供
- 平成16年5月の十二湖トレッキングイベントで地元岩崎地区の女性団体が地産地消の昼食を提供した際、首都圏の参加者から好評を得たことがきっかけ
- 平成18年度は県内外からの1,227名の宿泊者に食事を提供

ポイント

- 農家、漁家の所得向上や地産地消の推進に寄与
【所得の向上、地産地消】
- イベントをきっかけとした地域資源の見直し
【地域資源の活用】

